

御伝鈔（その3）

親鸞聖人のひ孫である覚如上人が、親鸞没後33年に親鸞聖人の御遺徳を讃えた『報恩講私記』を著わされました。続いてその翌年、親鸞聖人の伝記絵『親鸞伝絵』を著わされ、詞書（ことばがき）の部分だけを『御伝鈔』（上巻・八段、下巻・七段）といいます。

第三段 「六角夢想（ろっかくむそう）」

親鸞聖人は、31歳の建仁三年（1203）4月5日午前4時頃に夢を見ました。お弟子の真仏房が書かれたという『夢記』の記録が残っており、『夢記』には、次のようなことが記録されています。

六角堂の観音菩薩が、おごそかな顔立ちをした聖僧となり、白い衣にお袈裟を付け、大きな白蓮華に正座して親鸞聖人に仰った。「いままで僧侶は妻帯してはいけなと禁止されてきましたが、もしあなたが宿業によって妻帯をされるなら、私（観音菩薩）が玉のような美しい女性の姿になって、あなたの妻となりましょう。そして、一生の間、あなた（親鸞聖人）がお念仏の教えをひろめることを助け、あなたの臨終の時には極楽に導き往生させましょう。」

さらに観音菩薩は、「これは私の願いなのです。親鸞よ、この私の願いを、みんなに説き聞かせなさい。」と仰った。



善教寺保育園卒園式写真（昭和31年3月27日）



善教寺の桜

住職レター

今年の桜、開花の時期が短かったように思います。雨が多く、寒かったせいもあるのでしょうか。皆さまの地域の桜は、どうでしたか？

東広島近郊で、桜の名所といえば、鏡山公園でしょうか。例年お花見の頃には、公園内が大賑わいです。広島大学の学生さんも、花冷えの中、夜遅くまで花見酒に興じていました。

私が好きな桜のスポットは、地元の保育園の桜です。郵便局からの帰り道、保育園前の交差点で停まると、とても気持ちが良いです。時には、桜の花びらの向こうに、保育園の園児が重なって見えます。

善教寺の桜もご紹介しておきましょう。門信徒会館の南側、塀沿いに咲く、一本の桜。しかし老木だからでしょうか、昔に比べると、桜の花の勢いが衰えたように思います。

桜の開花時期は、一年でも極わずかな瞬間。それゆえ、桜を愛でる者の心を捉えるのですね。

また来年、桜の花に出逢えますように。

